

## 編集後記

中村学園大学 流通科学部

山田 啓一

この度の東日本大震災に遭われた地域のみなさま、また、被災地に関係の深いみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興とみなさまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

2011年度も相変わらず就職戦線は厳しいままで推移しています。産業の空洞化が叫ばれるようになって久しいですが、製造業がコスト競争力確保のための生産拠点を目指した従来型の空洞化の動きに加え、アジアの新興市場を目指して流通業やサービス業までもが海外に進出するようになってきています。

雇用の受け皿である多くの企業が海外へ進出するとすれば、就職戦線も厳しくなるわけです。それは、「量」と「質」の両面で企業のニーズが厳しくなることを意味します。「量」の面では、経営環境が厳しくなれば、企業はできるだけ合理化を図り、必要最低限の雇用しか行わなくなります。また、「質」の面では、海外進出も含めてできるだけ即戦力として戦える能力のある人材を選んで雇用することになります。

このような企業のニーズにこたえるためには、高等教育を行う「学」の側にも、単なる教養教育だけではなく、語学、情報リテラシーをはじめ、専門性を持った学生を育てていくことが期待されているでしょう。実際、日本企業の中でもグローバルな展開を目指す大手企業では、社内のコミュニケーションを英語にするなどの動きも進展しています。

本学流通科学部では、このような企業ニーズを満たすべく、平成25年度にアジア・ビジネス・コースがスタートします。本研究所の活動もそれに合わせて、よりいっそうアジア（中国、東南アジア、インドなど）に関する研究活動とりわけ「食」および「流通」に関する研究活動を強化していく予定です。関係者のみなさまのより一層のご理解とご支援を賜りたく、よろしくお願いたします。